

登園許可証 (医師が記入する証明書)	病名	おもな症状	出席停止期間	備考
	インフルエンザ	高熱(39℃~40℃) 関節や筋肉の痛み 全身倦怠感 咳・鼻水・のどの痛み	発症後最低5日間かつ解熱後3日間を経過するまで ※発症日を0日目とする	肺炎から脳炎などの合併症に注意。 発病や意識の様子に気をつける。
	百日咳	コンコンという短く 激しい咳が続く	特有の咳が消失、又は5日間適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	3歳以下の乳幼児は肺炎を合併することがある。
	麻疹 (はしか)	発熱・鼻汁 目やに・発疹・くしゃみ	解熱後3日を経過するまで	
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	発熱 耳の前下部の腫れと痛み(押すと痛む)	耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫れが発現後5日を経過、かつ全身状態が良好になるまで	思春期以後の感染では、睾丸炎、卵巣炎の合併に注意。
	風疹 (三日はしか)	38℃前後の発熱 発疹 リンパ節の腫れ	発疹が消失するまで	妊娠初期の感染は、リンパ節の腫れ、奇形児出産率が高い。
	水痘 (水ぼうそう)	発疹→水泡→かさぶた 軽い発熱	全ての発疹がかさぶたになるまで、かつ症状が消え2日を経過するまで	
	咽頭結膜熱 (プール熱)	38℃~40℃の発熱 のどの痛み・目やに 結膜の充血	発熱、充血等の主症状が消えた後2日を経過するまで	医師の許可があるまでプールに入らない。
	流行性角結膜炎 (アデノウイルス感染症) (はやり目)	目の異物感・充血 まぶたの腫れ・目やに腫 孔に点状の濁り	医師が感染の恐れはないと認めるまで (結膜炎症状が消失してから)	医師の許可があるまでプールには入らない。感染性が高い。
	腸管出血性大腸菌 感染症(O-157など)	激しい腹痛 水様性の下痢、血便	医師が感染の恐れはないと認めるまで	溶血性尿毒症症候群などの合併症に注意。
	急性出血性結膜炎	流涙・充血・目やに まぶたの腫れ	医師が感染の恐れはないと認めるまで (結膜炎症状が消失してから)	医師の許可があるまでプールには入らない。子どもには少ないが、感染性が高いため家庭内感染に注意。
結核	咳・発熱・全身の倦怠感	医師が感染の恐れはないと認めるまで		
髄膜炎菌性髄膜炎	高熱・吐き気・首が硬い・ 精神症状	医師が感染の恐れはないと認めるまで		
登園届 (医師の診断を受け保護者が記入する届出書)	病名	おもな症状	登園基準	備考
	溶連菌感染症	発熱(39℃前後) 発疹・扁桃発赤・腫脹 咽頭痛・いちご舌など	抗菌薬内服後24~48時間経過してから	急性腎炎・中耳炎 リウマチ熱に注意。
	感染性胃腸炎 (流行性嘔吐下痢症) ウイルス性胃腸炎 (ノロ・ロタ・アデノ)	吐き気・嘔吐・下痢 腹痛・発熱	下痢症状が治まり普通便になる 嘔吐症状がなくなり普段の食事ができる 医師が許可してから	効果のある薬はない。菌を出し切る為、 整腸剤は服薬しないほうがよい。 脱水症状に気を付ける。 症状改善後も注意が必要。
	ウイルス性肝炎 (A・B・C型)	発熱・全身倦怠感・悪心・ 嘔吐・黄疸・右季肋部痛	症状が改善し医師が登園可能と 判断してから	
	りんご病 (伝染性紅斑)	両頬に少し盛り上がった じんましんのような発疹・ 発熱	症状が改善し元気があれば登園可能	妊婦は感染しないよう、流行期 には注意が必要。
	ヘルパンギーナ (夏風邪症候群)	高熱(38℃~39℃) 咽頭発赤・のどの奥に白 い小さな水泡疹	発熱・口腔内の症状が影響なく普段の食事が 摂れること	
	マイコプラズマ肺炎	発熱・乾性の激しい咳が 続く・咽頭炎 胸部レントゲン陰影	発熱・激しい咳が治まり医師が登園可能と 判断してから	発熱後、長い咳に注意。
	RSウイルス感染症	発熱・鼻水・咳・喘鳴・ 呼吸困難	呼吸器症状がなく、全身状態が良く医師が 登園可能と判断してから	
	带状疱疹	丘疹・小水泡が帯状に群 がって出現する	全ての発疹がかさぶたになってから	
	突発性発疹	高熱(38℃~39℃)が3日 程度続き、解熱後に発疹	解熱し機嫌が良く、全身状態が良好である こと	
	水いぼ (伝染性軟属腫)	からだに水いぼができる	掻きこわし傷から滲出液が出ている時は、 完全にガーゼで覆い接触感染を防ぐこと	水遊び期間中は 水遊び許可書の 提出が必要
手足口病	軽い発熱(2~3日) 小さな水泡が口の中や手 足にできる	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく 普段の食事がとれる 手足の水泡がなくなる		
とびひ (伝染性膿痂疹)	からだに水泡ができる→ 破れて膿が出る・かゆみ	皮疹が乾燥してから 湿潤部位がある場合は、完全にガーゼで覆 い接触感染を防ぐこと		